

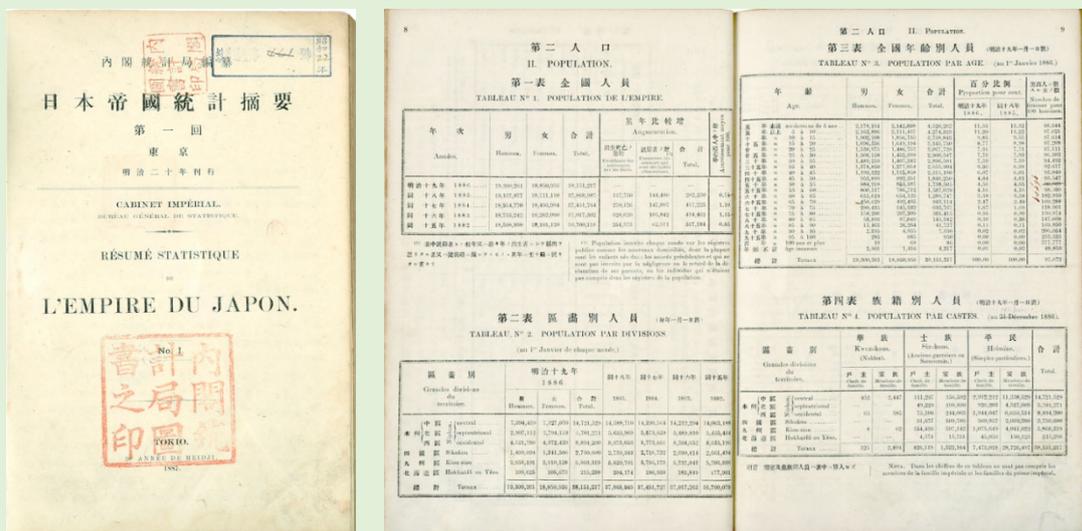
ニューカレドニア日本人移民団の初代総監督は統計院OB！

奥積 雅彦（総務省統計研究研修所教官）

1 フランス語の対訳が付された日本帝国統計摘要

日本帝国統計摘要は、日本帝国統計年鑑の摘要版で、明治20年（1887年）に第1回が創刊されました。同書の緒言（資料1）をみると「従来出版の統計書は邦文に止まりしが、今此書は…仏文を用いしは万国統計公会の決議に基づきたるものなり」とされています。フランス語の対訳が付された本書の刊行により、海外における利用の便が図られることとなりました。

日本帝国統計摘要 第1回



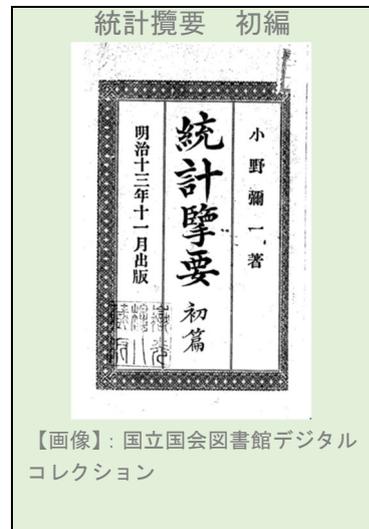
【画像】：総務省統計局HP「統計の黎明とその歴史」の「統計史料」

2 万国統計公会の決議と日本帝国統計摘要

今後における統計図書館の統計相談業務（調べもののお手伝いをするレファレンス業務）を想定し、日本帝国統計摘要（第1回）の緒言でいう万国統計公会の決議について調べてみました。

国立国会図書館デジタルコレクションで「万国統計公会」をキーワードとして検索したところ、小野弥一著「統計肇要初編」¹（明治13年¹⁸⁸⁰年刊行）にヒットしました。その中に万国統計公会の起源や統計の編制（万国統計公会の決議）について紹介されていることが分かりました。

同書で、1853年ブリュッセルで開催の第1回公会における決議及び1855年パリで開催の第2回公会における決議の内



【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション

¹ 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/805743/1>

容が訳出されています（【参考1】参照）。その趣旨について、同書で「努めて各国統計の方法を同一にして以て比較の便を得せしむるにあるなり」、「統計は…一国の用に応ずるのみならず、尚ほ世界一般の用に充つべきものなり」とされています。このことは、万国統計公会の決議の理念を示唆していると考えられます。また、高橋二郎「統計萬國會議の沿革及概況」（統計集誌第 359 号）²によれば、1869 年のハーグの公会において、エンゲル係数で有名なドイツのエンゲル氏の発議により、加盟各国が分担して編成した万国比較統計が 1876 年の公会に提出され、皆フランス語が用いられていたとされていました。そこで、万国比較統計には、フランス語の対訳を付す万国統計公会の決議があるのではないかと考え、統計集誌等を探索してみました。その結果、モーリス・ブロック著、塚原^{まさし}仁訳「統計学の理論と実際」の第三章（統計會議）/第三節（結果及び未決定事項）³に、（万国比較統計の）「報告書は全てフランス語を以て発表すること…等を決定した。」との記述がありました。また、高橋二郎「統計書ノ刊行及交換ニ關スル公會ノ決議」（統計集誌第 84 号）⁴に、^{ロンドン}龍動の公会において「万国統計に用ふべき一切の表類には数字の欄頭に書せる為め別欄を加へて其国語と仏蘭西語と対訳すべし」とする決議に係る記事がありました。したがって、日本帝国統計摘要の緒言の「今此書は…仏文を用いしは万国統計公会の決議に基づきたるものなり」でいう「決議」は 1860 年のロンドンの公会の決議をさしていることが分かりました。

万国統計公会について

●万国統計公会とは

近代統計学の父と称されるケトラー（1796～1874）が、1851 年イギリス・ロンドンで開催された世界博覧会が開催された時、各国の統計を比較可能にするために、統計の定義、単位、作成方法の統一を図ることが重要と考え、同志とともに協議して、統計に関する国際会議の開催を提案。1853 年、自身が提案した第 1 回万国統計公会がブリュッセルにて開催され、そこで初代会長に選出されました。公会は、1876 年まで 9 回開催されました。会議は各国の代表者のほか民間の学者で構成。

【参考資料】：高橋二郎「統計萬國會議の沿革及概況」、横山雅男「統計学」、国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP）により保存された 2018 年 6 月 1 日現在の統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」（統計年表の「アドルフ・ケトラー」）

●日本と万国統計公会との関係

日本帝国統計摘要の緒言に「統計の官を置かれてより未だ幾ばくならずして我政府はフランス統計学士モーリスブロック氏を名代人とし万国統計の大会へ加はりしこと凡そ二回に及べり。即ち明治八年^注ハンガリー・ブダペストの万国統計公会…是れなり」とあり、また、前掲の「統計萬國會議の沿革及概況」の「第五 本邦と万国公会の関係」においても「明治四年太政官に政表課を置かるゝや翌年ペテルブルクの公会あり我が政府は委員派遣の意ありしも我政府は果さず唯当地在欧西岡議官外数名の員外列席あり次回ブダペストの公会にはフランスの統計学者モーリス・ブロック氏（Maurice Block）を以て本邦の名代人となし之に列席せしめ文明各国中に名誉の地位を占め余も此時を以て政表課に入り公会の往復に関し一々同氏の報告を訳して当路の参考に供せり」とあり、万国統計公会で我が国の名代人としてモーリス・ブロック氏に委託したことをうかがい知ることができます。

【注】：【資料 1 参照】

●万国統計公会の開催状況

第九回	第八回	第七回	第六回	第五回	第四回	第三回	第二回	第一回	順 序
ブダペスト	ペテルブルク	ハーグ	フロレンス	ベルリン	ロンドン	ウイーン	パリ	ブルッセル	開 會 地
一八七六	一八七二	一八六九	一八六七	一八六三	一八六〇	一八五七	一八五五	一八五三	年 紀
二六七	三六〇	三七二	六六六	三五〇	五〇五	四六四	二〇三	八八	自 員 出 席 人 員
一七五	一二八	一一六	六五	一二七	八一	七八	一〇八	六五	
四四二	四八八	四八八	七三一	四七七	五八六	五四三	三一	一五三	助 席 人 員

【画像】横山雅男「統計学」：国立国会図書館デジタルコレクション

² 国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館／図書館送信参加館限定）で閲覧可能
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1573227/85>

³ 国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館／図書館送信参加館限定）で閲覧可能
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1061792/43>

【参考】原書（モーリス・ブロック著「Traité Théorique et Pratique de Statistique」）では、「On décida en outre que tous les volumes seraient publiés en francais」とされています。

⁴ 国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館／図書館送信参加館限定）で閲覧可能
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572950/5>

3 小野弥一のプロフィール

「統計攬要 初編」の著者である小野弥一のプロフィールについても調べてみました。国立国会図書館デジタルコレクションや検索サイトで「小野弥一」をキーワードとして検索したところ、統計集誌第154号に所収の鴨里陳人「故小野彌一君の履歴」⁵、統計学雑誌第303号に所収の岡松徑「明治九年以降十年間漫録」⁶と小野健次「ニューカレドニア初代日本人移民団総監督の足跡」（琉球大学学術リポジトリ）⁷に小野弥一の履歴が掲載されていました。当該資料のほか政表課誌⁸、官報⁹、国立公文書館デジタルアーカイブ¹⁰を参考に作成した同人のプロフィールは次のとおりです。

小野弥一（1847-1893）	
	<p>弘化4年（1847年）生まれ。昌平坂学問所（昌平黌）を経て、横浜仏語伝習所でフランス語を学ぶ。開成所教授ののち徳川家に仕え、明治4年（1871年）、アメリカ、ドイツ経由でスイス・ジュネーブに到着し、普仏戦争が鎮まるのを待って、フランスに留学。元中央統計局長ルゴァー氏の家に寓し、同氏について統計学、行政学、経済学を学び、その後モーリス・ブロック氏に学ぶ。また、フランス駐在の中野公使代理を通じて、フランスの司法省、農商務省、大蔵省の各統計部局において、実務を執り、様式の調整、事実の蒐集方法等を攻究。帰朝後は、明治10年、調査局<small>（政表課誌の8月17日に調査局御用掛となる旨の記事があり、政表（統計）の業務を担当したとみられる）</small>を経て、明治14年、統計院<small>（現在の総務省統計局に相当）</small>、会計検査院に勤務。その後、工部省、文部省（帝国大学書記官）、会計検査院検査官補を経て、明治25年、ニューカレドニア初代日本人移民団総監督を嘱託される（会計検査院の非職検査官補の身分で日本吉佐移民会社へ加盟し社員業務に従事）。明治26年、現地で死去。東京統計協会¹¹会員、役員としても活躍。</p>
<p>【写真】：小野健次氏所蔵</p>	

4 東京統計協会のメンバーとしての小野弥一的主要功績

（1）人口調査の草案を作成¹²

明治17年（1884年）4月の東京統計協会¹³の定期総会の日、小野弥一は「人口調査ノ必要ナル理由」について演説し、彼の発議により人口調査の実施方法を調査することとなり、調査委員として、小野弥一、依田昌吉、高橋二郎、武市利美、辻啓一郎、呉文聰、相原重政の7名が人口調査の参考資料の収集、草案の起草を担当しました。草案及び参考資料につい

⁵ 国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館／図書館送信参加館限定）で閲覧可能 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1573021/21>

⁶ 国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館／図書館送信参加館限定）で閲覧可能 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1487845/16>

⁷ <http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/bitstream/20.500.12000/36857/1/No11p163.pdf>

⁸ 政表課誌：明治4年から明治14年の統計院設置に至るまでの太政官政表部門（政表課等）の史実

⁹ 国立国会図書館デジタルコレクション【資料2】

- ・明治24年12月15日付け官報 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2945802/4>（非職の件）
- ・明治26年11月10日付け官報 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2946375/2>（依願免本官の件）

¹⁰ 国立公文書館デジタルアーカイブ【資料2】

- ・明治24年12月14日付け文書 会計検査院・検査官補小野彌一非職被命ノ件
- ・明治24年12月22日付け文書 非職検査官補小野彌一日本吉佐移民会社へ加盟社員業務ニ従事ノ件
- ・明治26年11月08日付け文書 非職検査官補小野彌一依願本官被免ノ件

¹¹ 東京統計協会：統計図書館ミニトピックスNo.14「明治期に創刊された民間統計団体の機関誌は？」脚注2参照

¹² 人口調査の草案（統計集誌第55号）：国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館／図書館送信参加館限定）で閲覧可能 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572923/15>

¹³ 東京統計協会：統計図書館ミニトピックスNo.14「明治期に創刊された民間統計団体の機関誌は？」脚注2参照

ては明治 19 年 3 月に東京統計協会会長渡辺洪基名義で内閣統計局長石橋重朝あてに提出されました。これを受けて政府が直ちにアクションを起こすことはありませんでしたが、東京統計協会は、その後も累次にわたり政府や衆議院、貴族院に国勢調査の建議・陳情などの国勢調査実現のための促進運動などの働きかけを行いました。こうした活動も奏功し、大正 9 年（1920 年）に第 1 回国勢調査が実現しました。小野弥一の発議による人口調査の草案は、国勢調査の創始に向けた要請行動の先駆けとなるものと考えられます。

（2）フィッセリング「統計ノ限界」の翻訳

東京統計協会の機関誌である統計集誌第 57 号・第 59 号（参考 2 参照）に所収の小野弥一訳「統計ノ限界」（第 7 回万国統計公会でフィッセリングが起草提出したものを翻訳したもの）については、宮川公男「統計学の日本史」（2017 年刊行）第 5 章の「明治統計学の学問論争」の冒頭で引用されており、彼の訳文が統計学の学問論争を理解するうえで重要な位置づけにあることをうかがい知ることができます。

（3）統計集誌への横書きの文とアラビア数字の表式の導入

前掲の岡松徑「明治九年以降十年間漫録」によれば、統計集誌が一時、横書きの文とアラビア数字の表式とし、これを提案したのは小野弥一である旨が紹介されており、縦書き主流の時代において、彼の先見の明を感じます。このことは、統計集誌第 67 号（参考 2 参照）における彼の執筆記事「統計集誌體面改正ノ必要」からもうかがい知ることができます。

5 おわりに

島村史郎「日本統計史群像」（杉亨二と門下生）によれば、太政官（政表部門、統計院）時代の杉亨二の門下生には、外国語に堪能な者が多くいたとされ、そのなかにフランス語に堪能な小野弥一の名前が挙げられていました。今回、たまたま、日本帝国統計摘要について調べる過程で、小野弥一の名前が登場し、前掲の「ニューカレドニア初代日本人移民団総監督の足跡」に出会い、彼はニューカレドニアのニッケル鉱山で働く日本人移民約 600 名を率いた初代総監督であったことがわかり、さらに調べると、彼は、徳川宗家給費生に選抜され、フランスに留学し、統計学や統計実務などを学び、また、帰朝後、統計院に勤務するなど、統計の黎明期である明治初期から中期に、欧州の統計学の導入に貢献した一人であることがわかりました。

今回の調べものからも、国勢調査の創設に向けて多くの人の努力があったからこそ、100 年前の大正 9 年（1920 年）に第 1 回国勢調査を実施することができたのだと再認識し、国勢調査前史における小野弥一の功績を後世に伝えたいと思います。

このトピックスの執筆に際し、琉球大学附属図書館大谷さまを通じて同大学宮内久光教授から小野健次氏所蔵資料の情報等をご提供いただきました。小野健次氏からは、所蔵資料（履歴書など）の情報提供など多大なご協力を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。

また、小野健次氏の「ニューカレドニア初代日本人移民団総監督の足跡」（琉球大学学術リポジトリ）において掲げられた次の参考文献が大変参考になりました。

- ・小林忠雄「小野弥一伝」（仏蘭西学研究 14 号所収）（早稲田大学図書館蔵書を閲覧）
- ・小林忠雄「ニュー・カレドニア島の日本人 契約移民の歴史」（国立国会図書館蔵書を閲覧）

【あとがき】

■明治期に我が国で初めて留学して統計学を受講したのは小野弥一？！

我が国で留学して初めて統計学を受講したのは、文久2年（1862年）から慶応元年（1865年）までオランダに留学（ライデン大学でフィッセル教授の指導を受ける）した津田真道と西周ですが、彼らは西洋学問の全体像把握の一環として統計学を学びました。その後、明治期における統計関係者や統計学者の履歴を調べた限りでは、明治4年（1871年）に小野弥一が留学のためアメリカ等を経由してフランスに赴き、統計学などを学び、明治6年にドイツ語通訳としてウィーンに派遣された相原重政がオーストラリア商業大学校で、統計学を学んだことがわかりました。そして、新渡戸稲造がドイツに留学して統計学を学んだのは、明治20年であり、その後、柳沢保恵が明治27年に留学のためヨーロッパに赴き、ドイツ、オーストリア、ベルギーの大学で統計学などを学び、次いで、高野岩三郎が明治32年から留学のためドイツに赴き、ミュンヘン大学で経済学と統計学を学び、その後、藤本幸太郎が明治43年から3年間ドイツ、イギリスに留学し、統計学を学び、財部静治が明治44年から、統計学研究のため、ドイツ、イギリス、アメリカに留学したことがわかりました。

また、富田仁編「海を越えた日本人名事典 新訂増補」（16世紀から明治中期までの欧米諸国へ渡航した日本人2,100人を収録した人名事典）を調べたところ、明治期に小野弥一よりも先に、留学して統計学を学んだ者は見当たりませんでした。

以上のことから、明治期に我が国で初めて留学して統計学を受講したのは、小野弥一である可能性が考えられます（現時点における筆者の個人的見解です。）。

【参考資料】

- ・相原重政：島村史郎「日本統計史群像」（杉亨二と門下生）
- ・新渡戸稲造：新渡戸記念館HP
- ・国立公文書館デジタルアーカイブ「故伯爵柳沢保恵叙勲ノ件」
- ・大島清「高野岩三郎伝」
- ・藤本幸太郎「統計学と私：留学時代とその前後」（一橋大学機関リポジトリ）
- ・国立公文書館デジタルアーカイブ「故京都帝国大学教授財部静治勲章加授ノ件」

■原敬と渡辺洪基と小野弥一との縁

明治19年（1886年）3月に東京統計協会会長・渡辺洪基（注：東京府知事、帝国大学総長などを歴任）が内閣統計局長に提出した人口調査の草案は、明治4年からフランスに留学し、統計学や統計実務などを学んだ小野弥一の発議（明治17年）により作成することになりました。また、原敬（当時、パリのフランス公使館書記官として勤務）は、渡辺洪基会長の依頼により、明治19年5月に実施されたフランスの人口センサスの実施状況を詳細に調査して、その結果と所見を同人あて書簡で報告しています。原敬と渡辺洪基と小野弥一との縁を感じます。この縁も我が国の国勢調査の創始に向けた原動力になったと考えられます。

【参考】「原敬日記」（福村出版）第1巻

（明治十九年五月）三十一日 仏国人口調査あり、二十九日夜より三十日に越したる現員を各戸毎人に就き年齢、職業等一切を記載せしむ。

（原敬と渡辺洪基の盟友関係については統計図書館ミニトピックスNo.20「首相時代の原敬日記と国勢調査」参照）

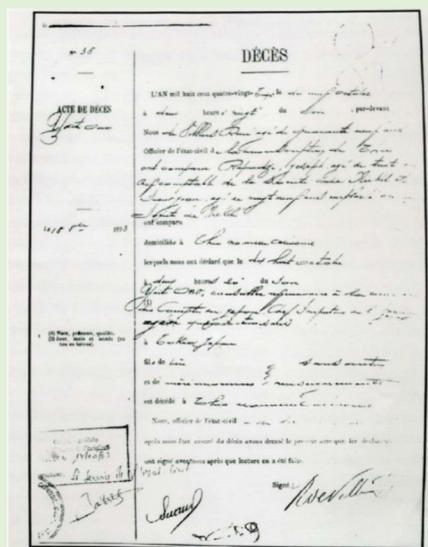
■統計の日に…

小野弥一がニューカレドニア日本人移民団の初代総監督として、精神的、肉体的に著しい労苦の多い環境において業務に精励をしたことは、前掲の「ニューカレドニア初代日本人移民団総監督の足跡」及び「ニュー・カレドニア島の日本人 契約移民の歴史」からも読み取ることができます。後者の文献から、外務省大臣官房移民課長名義で監督官の更迭を始めとする措置を求める文書が存在していることも分かり、衝撃的でした。当時の外務省大臣官房移民課長は、原敬（外務省通商局長兼取調局長）が兼務していたことについても、先般、原敬と国勢調査についてのトピックスを調べていた筆者にとって衝撃的でした。ちなみに、原敬日記（福村出版）第1巻で当該文書の日付け前後の記事で関連のありそうなものは見つかることができませんでした。

そして、小野弥一は、奇しくも、（昭和48年（1973年）7月3日閣議了解により制定された）統計の日（10月18日）にニューカレドニアで病気により不帰の人となりました。

筆者は、今回の調べもので統計院OBである小野弥一の功績や労苦を知り、国の未来の礎を築くこととは何かについて改めて考える機会を与えていただくことができました。

・小野弥一の死亡証明書（Acte de décès）



【画像】：前掲の「ニューカレドニア初代日本人移民団総監督の足跡」（原資料はニューカレドニア・チオ市保管）

※文中「dix-huit octobre」（フランス語）とあり、死亡日（10月18日）がわかります。

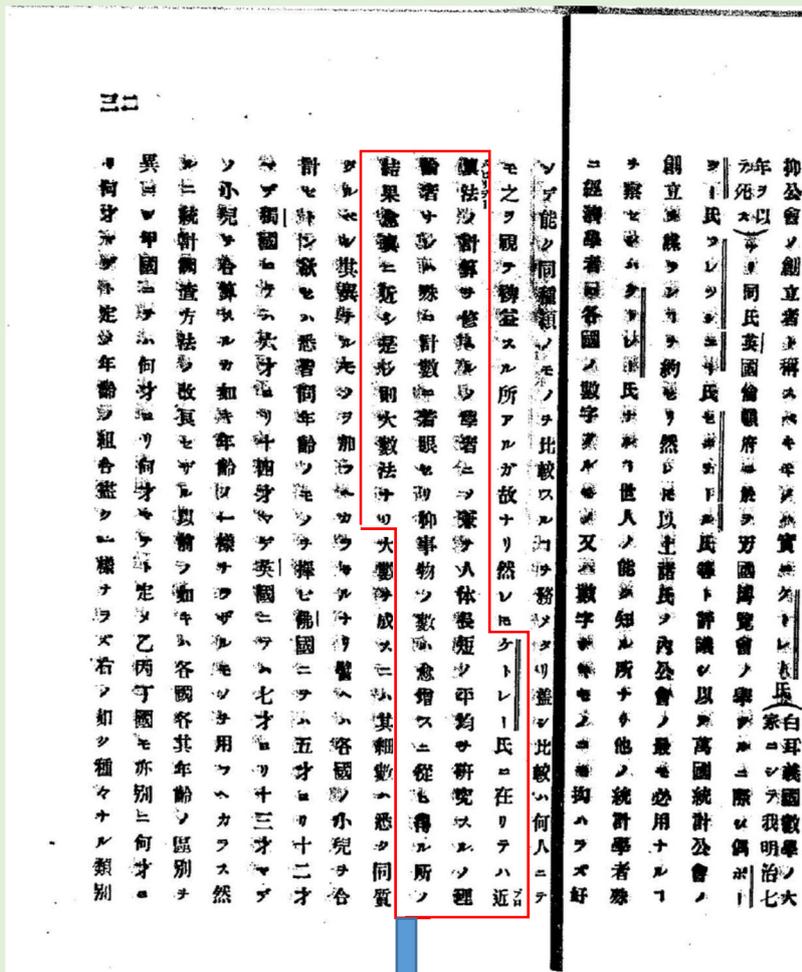
■統計学において「Probability (プロバビリティー)」の訳字を最初に考案したのは小野弥一？！

中塚利直は、その論文「プロバビリティーの訳語の歴史」において「明治の初期に統計学の本はいくつか発行されているが、現代的あるいは数学的な意味でのPの翻訳の第一号の荣誉を授けるべきは、明治13(1880)年の小野弥一「統計學要初編」であろう。」とし、同書の23頁を引用し、「プロバビリティー」を「近眞法」と訳していることを紹介しています。同論文では「貨幣を何度も投げ、表が出る割合を調べる実験は我々も時々するが、これを最初に広めたのがケトラーであり、明治の本にはケトラーの実験として紹介されている。つまりケトラーは統計でデータを集めるのは、大量に集めて真実を掴むためと考え、その根拠を、当時のP理論の発展に拠った。小野はP理論は大数の理論そのものと考えたのであろう。そこで真に近くなるという意味で「近眞法」と訳した。彼はその後ケトラーをより詳しく紹介し、そこで「近眞理論」や「近眞法」を使っているが、彼自身がPの数学理論を展開することはなかった。小野はP理論の最初の翻訳をなしただけでなく、初めて数学的な意味でのPに接した日本人ではないかと予想される・・・」としています。

【注】当該論文では「プロバビリティー」を単に「P」と略称しています。

筆者は統計 TodayNo.136「なぜ「Statistics」は「統計」なのか？—「統計」の訳字が定着するまでの経緯と森鷗外」において、「Statistics」の訳字が「統計」に定着するまで紆余曲折があったことを紹介したところ。今回の調べもので、統計学において「Probability (プロバビリティー)」の訳字が「確率」に定着するまでの経緯についても、紆余曲折があり、そして、その経緯の中で、統計学において「Probability (プロバビリティー)」の訳字「近眞」を最初に考案したのは小野弥一であるとみられることを知り、温故知新を実感しました。そして、それは、筆者の無知を自覚し、日々是反省する修行のような・・・

・小野弥一「統計學要初編」(第2章 万国統計公会の起源)(抜粋)



【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション

ケトラー氏に在りては近眞法(プロバビリティー)の計算を修むるの學者にて兼て人体長短の平均を研究するの理論者なれば、殊に計數に着眼せり。抑事物の數は愈増すに従ひ得る所の結果愈眞に近し。是れ則大數法なり。

(筆者が原文のカタカナをひらがな表記にし、ルビ等を付しました。※青字は筆者の天然知能の誤作動の判明に伴う誤字修正。)(2020年8月修正)

【参考1】小野弥一「統計學要初編」(第3章 統計の編制(万国統計公会の決議))(抜粋)

(筆者が原文のカタカナをひらがな表記にし、旧字体はできるだけ新字体にし、句読点等を付しました。)
※原文のファイルにおいて一部不鮮明な文字があり、黄色のマーカ一部分は、考えられる文字を仮置きし、それでもなお判読できない文字は「■」表示としました。

第三章

統計の編制(万国統計公会の決議)

…(略)…

ブリュッセル府並に巴里府の公会に於て議決したる條章は、最も簡明なるを以て、今之れを訳出して左に示す。…(略)…

ブリュッセル府公会の決議 1853年

統計の効用、統計の執行及び官版の統計に付各国にて画一基礎を採用

万国統計公会を設けたる目的は、各国政府に於て刊行する所の官府の統計をして殊に画一に赴むかしむることを求め、且つお互いに比較し得る所の結果を得せしむるに在り。

苟しくも統計一般の基礎を立て、各国に於て一とたび同一の式目を採用するに於ては、其節目に属する特別なる統計事業の如きは最も容易に赴むくことを得べし。斯(こう)した万国同一の式目を用ふる時は、統計の事務を簡明にし、其効用と堅固とを保證することを得せしむべし

官府統計の事業をして画一ならしめんには、先づ其事実を集めんことを要し、又一般なる統計各部分の編輯を任せられたる重もなる役員は、互に面会し、互に會議することを得。且つ同一の類別を允許(いんきよ)し、同一なる事物を表章せんには、精密なる検査を歴たる後、同一の名称、同一の数字を採用し、一般なる統計の諸表は欠漏重複なからしめんことを要す。統計をして画一ならしむる所の最大良法を各国に於て統計中央会あるいは之れに類似せる■■■設置するも在り。但し、其委員に重もなる官庁の名代人を以て之れに任じ、之れに加ふるに學問又は特別なる智識を以て實際を明らかにし、又全く學術上に関する所の難問を解明し得べき人を以てすべし

右の法案は必ずしも斯くあらんことを要するにあらず、惟統計の諸務を一人又は数人なる役員の掌中に集合せしむれば裨益する所あるべきを謂ふなり。

許多(あまた)の統計書類中には实地現場にあらざれば其の驗(けん)をなすこと能はふるもの多く、又統計は實に微細なる節目に至るまで悉く検査を遂げんことを要するが故に中央会員と交通する所の役員官局又は特別なる委員を設たることには必用なりとす。斯く統計の線路を国内縦横に散布するときは事苟しくも少しの有用なるものあれば其事實調査の任を有する役員の注目を脱することを得ず。而して常に公衆の恐怖を惹き起し甚しきに至りては人民の抵抗を來す所の統計の大事業をして其裨益を了解せしむるに至るべし。此他、希望する所のものは各国の中央会員互に交際を結び各其出版の統計書及び事實を彙集し、配列し、又は之れを抜粋せんがため用いたる諸表式を交換するの事なり。

万国公会は統計の学科に於て最も進歩したる各国中央会員の名代人を会集するものなれば統計學一齊の進歩をなすこと疑ひなし。統計の學たる其の事業の画一と互いに比較し得べき結果を得るの方法とを以て最も肝要とするものなり。

前條に記載したる一般なる主義に添へて公会は尚ほ左の決議を採用せり。

第一 各国に於て一の中央会を設くるか又は一人の委員を定めて交換、通信の道を容易にし、且つ之れを拡張するため安全神速にして、且つ入費少なき方法を以て統計の書類を送達受領することを任ずべし

第二 白耳義(ベルギー)国中央統計会の報告書には、毎年前條に記述したる交換の目的に因りて統計に関する書類刊書及び通報を公布すべし

巴里(パリ)府公会の決議 1855年

各国に於て中央統計会を設くべし。但し、其委員の編制は重もなる官庁の代理人及び特別なる見聞或は學問に因りて統計の實際を明らかにし、又全く學問上に係る難問を詳明し、得べき者たるべき事

右二次公会の決議に拠れば万国統計公会の要は務めて(努めて)各国統計の方法を同一にし以て比較の便を得せしむるにあるなり。

故に未だ公会に加はらざる国に於ては速に其法の因り万国に通ずべき事物の類別を立るの變革を試みざるべからず否らざれば其調査する所一國偏僻(へんべき)の統計に遇きずして宇宙を通觀するに足るべき一部分の利益に供するに足らざるは論を待たずして明なり。蓋し公会決議の條件は各国學者の討論審議せし所にして其智識と經歷とを淘汰精煉(せいれん=精鍊)したるものなれば何んぞ国を問はず就中(なかんづく)未だ統計の進歩せざる国に於ては從來の雜糅(ざつじゅう)錯亂せる者棄て、之を採用するに及ば、其益少なからざるべし。斯くの如くにこの(このように行った)調査したる統計は則(すなわち)眞の統計にして一國の用に應ずるのみならず、尚ほ世界一般の用に充つべきものなり。

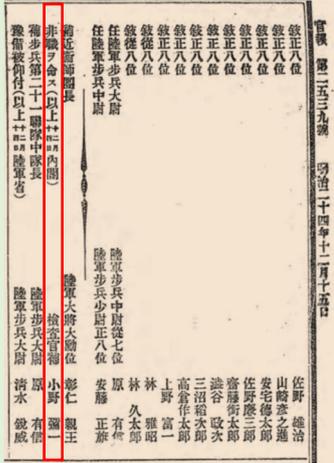
【参考2】「統計集誌」（東京統計協会）にみる小野弥一氏の執筆記事の例

	タイトル	備考 (記載の URL は、国立国会図書館デジタルコレクション (※国立国会図書館/図書館送信参加館限定) で閲覧可能)
統計集誌第 20 号 明治 16 年 ¹⁸⁸³ 年 4 月 刊行	歐洲各國中央統計會	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572888/3
統計集誌第 21 号 明治 16 年 5 月刊行	歐洲各國中央統計會	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572889/3
統計集誌第 37 号 明治 17 年 9 月刊行	人民論	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572905/3
統計集誌第 57 号 明治 19 年 5 月刊行	統計ノ限界 【注】第 7 回万国統計公 会でフィッセルングが起 草提出したものを翻訳	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572925/6
統計集誌第 59 号 明治 19 年 7 月刊行	統計ノ限界(第五十七 號ノ續キ)	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572926/2
統計集誌第 63 号 明治 19 年 11 月刊行	佛蘭西銀行役員貯蓄 會社 【注】パリ統計協会雑誌 より訳出	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572929/4
同	雜記 一千八百八十 三年商船ノ景況 【注】パリ協会雑誌に掲 載の海上保険雑誌より抜 粋した記事を訳出	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572929/8
統計集誌第 66 号 明治 20 年 2 月刊行	統計協會將來ノ事業	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572932/2
統計集誌第 67 号 明治 20 年 3 月刊行	統計集誌體面改正ノ 必要	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572933/3 【参考】本号から明治 20 年 12 月刊行の第 76 号まで左横書き 文とアラビア数字の表式に、表紙・目次は欧文併記に
統計集誌第 68 号 明治 20 年 4 月刊行	統計普及策考案	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572934/3
統計集誌第 70 号 明治 20 年 6 月刊行	学理ノ用ニ応スヘキ 統計書式編纂法一名 統計活用論	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572937/3
統計集誌第 71 号 明治 20 年 7 月刊行	萬國統計學士會院 (千八百八十七年四月 九日佛国經濟新報 抜訳)	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572938/8 【参考】統計集誌第 72 号・第 73 号に類似のテーマの記 事があるが、本文・目次に「小野彌一」又は「Y.Ono」 のクレジットなし ・統計集誌第 72 号 「萬國統計學士會院 (羅馬府通信)」 https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572939/12 ・統計集誌第 73 号 「萬國統計學士會院 (前号ノ続)」 https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572940/13
統計集誌第 73 号 明治 20 年 9 月刊行	萬國統計學士會院設 置ノ趣旨并本年伊國 羅馬府ニ於テ第一次 會開設ノ概況 (去ル 八月二日東京統計協 會月次会ニ於テ演 説)	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572940/3
統計集誌第 75 号 明治 20 年 11 月刊行	地方統計委員ヲ置ノ 必要	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572942/3
同	地方統計編纂ノ趣旨	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572942/3
同	佛國通路統計 (六十 九號ノ續キ)	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572942/8 【参考】統計集誌第 69 号に「通路統計」の記事はあるが本 文・目次に「小野彌一」又は「Y.Ono」のクレジットなし ・統計集誌第 69 号 https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572935/12
統計集誌第 90 号 明治 22 年 2 月刊行	官府ノ統計ヲ論ス (第一)	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572956/2
統計集誌第 91 号 明治 22 年 3 月刊行	官府ノ統計ヲ論ス (第二)	https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572957/4

【資料2】

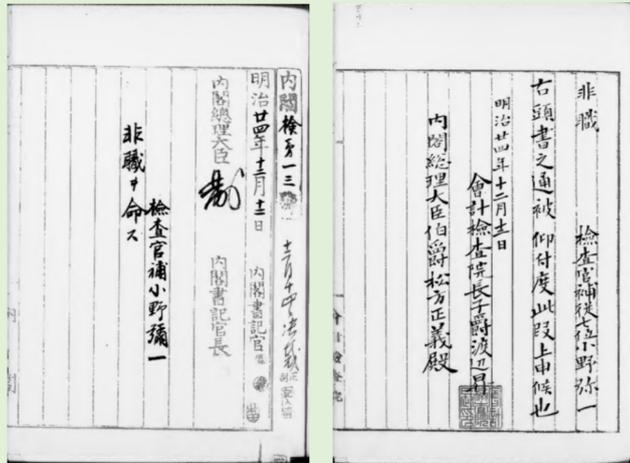
国立国会図書館デジタルコレクション

・明治24年12月15日付け官報
(非職の件)



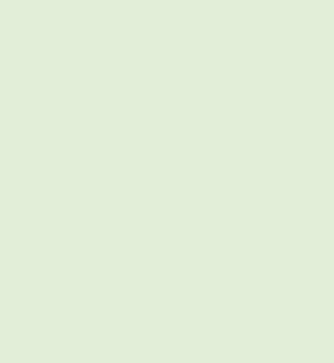
国立公文書館デジタルアーカイブ

・明治24年12月14日付け文書
(会計検査院・検査官補小野彌一非職被命ノ件)



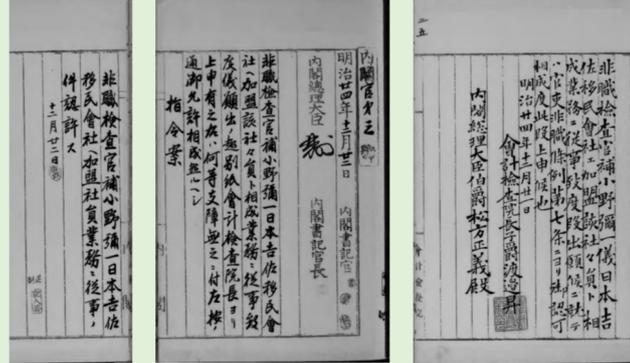
国立国会図書館デジタルコレクション

・明治24年12月22日付け文書
(非職検査官補小野彌一日本吉佐移民会社へ加盟社員業務ニ従事ノ件)



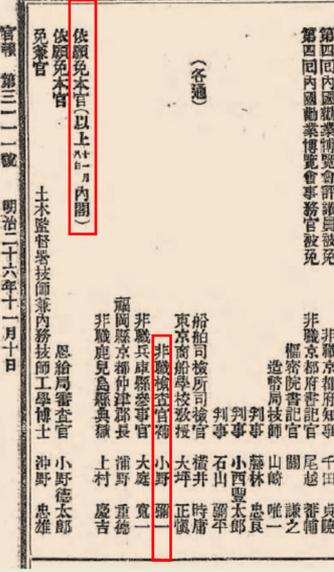
国立公文書館デジタルアーカイブ

・明治24年12月22日付け文書
(非職検査官補小野彌一日本吉佐移民会社へ加盟社員業務ニ従事ノ件)



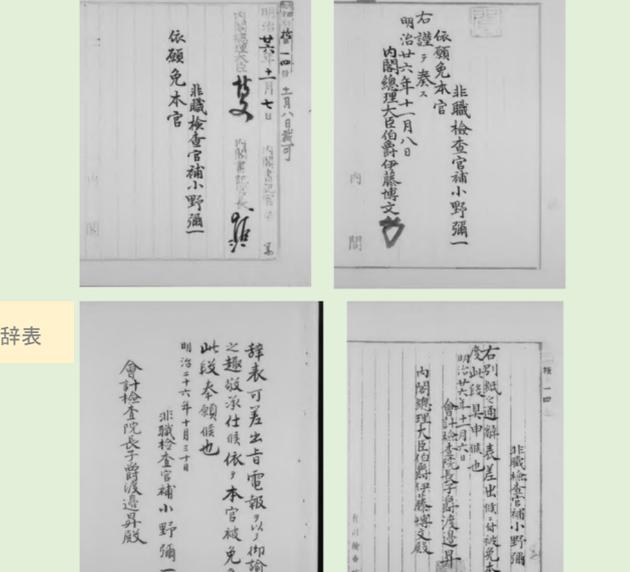
国立国会図書館デジタルコレクション

・明治26年11月10日付け官報
(依願免本官の件)



国立公文書館デジタルアーカイブ

・明治26年11月08日付け文書
(非職検査官補小野彌一依願本官被免ノ件)



【補足】上記の「非職検査官補小野彌一依願本官被免ノ件」をみると、免官発令が明治26年1893年11月8日付けでなされており（同月10日付の官報にその旨掲載）、発令裁裁に添付の辞表は明治26年10月30日付けとなっています。本人の死亡日（ニューカレドニアの日本人墓地と東京・青山墓地の石碑はいずれも明治26年10月18日と彫られており、日付は前掲の死亡診断書と同一）との関係でどう解するか…疑問です。辞表の日付は、後任の赴任時期を見込んだのでは…と予想するも、これを裏付ける資料は見当たりませんでした。